

令和4年度胸部画像精度管理研究会に参加して

一般財団法人京都予防医学センター

放射線科 藤澤 靖

精度管理研究会

令和4年12月22日（木）に結核予防会結核研究所にて「胸部画像精度管理研究会」が開催され、全国の支部及び本部施設から胸部検診のデジタル画像230枚の評価を行いました。

開催について

一昨年は新型コロナウイルス感染症の急激な増加により、研究会開催直前での中止となりました。昨年も感染の状況が好転していないことで中止となりました。今年度もオミクロン株が流行し開催中止もやむなしかと思っておりましたが、胸部画像の第三者評価が2年続けて行われていない事や、ロールフィルム時代から数十年に及ぶ画像を評価するノウハウが途切れてしまう事など開催の必要性を重視し、各関係者の熱意と協力のもと3年ぶりの開催となりました。しかし、一つのモニタを数名で見て評価する研究会の構成上、どうしても密な状態が続くことから、参加者を技師協議会の幹事とし、人数を減らし評価時間短縮と教育講演を無くすなど通常は2日間での研究会を1日としました（写真1）。さらに参加者全員が抗原定性検査キットによる感染確認を行い陰性者のみの参加としました。

評価結果（暫定）

全国から提出された230画像の評価結果は、A評価44画像（19.1%）、B評価112画像（48.7%）、C上評価72画像（31.3%）、C中評価2画像（0.9%）となりました。前回の令和元年と比較し、A評価B評価とも増加しC

上評価が減少し全般的に画質の向上がみられました。

研修会評価の所感

今回は評価経験の長いベテラン少人数という班分けで評価がされました。画像の目合わせで始まり、評価Ⅰ、評価Ⅱと進み、評価Ⅰ・Ⅱとも同じであれば評価が決まります。評価Ⅰと評価Ⅱで差異があれば再判定となります。評価経験の豊富なベテランとはいえ、意外に多くの画像が再判定に回っていました。毎年開催されていた評価が3年ぶりの評価となった事も関係があるかと感じました。また、C評価には具体的な改善点を記載していますので、次回B評価以上になっていれば研究会の意義が発揮出来ていると思います。その結果として、令和元年の評価と比べC評価-10%となり、B評価+8% A評価+2%と増え各支部の胸部画像の精度は向上していると感じました。

最後に

3年ぶりに開催できた事、実際に参加して画像を評価することが、非常に有意義であることが再確認できました。評価された採点表からは得ることが難しい他施設と自施設との差異や画像処理の方向性、画像を選ぶ目など、対面だからこそ得られるものがある研究会が継続され、これからの結核予防会を担って行く若手が多く参加できますよう祈っております。従来のように多くの参加者でにぎわった研究会が続きますよう、皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます（写真2）。🐼



写真1. 令和4年度評価している様子（筆者左から2番目）。今年度はベテラン医師と協議会幹事のみ40名で開催



写真2. 平成30年度評価している様子（筆者右）。全国から90名の参加者で大盛り上がりの評価班